2022年度 小委員会活動成果報告

(2023年 3 月 8日作成)

		(2023年 3 月 8日作成)
小委員会名	サスティナブル情報デザイン小委員会	主 查 名:清水友理 就任年月:2021年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名:渡辺 俊
設 置 期 間	2021年4月 ~ 2023年3月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	現在、超情報社会の到来、AI、IOT、ロボット等の技術革新を背景として、形や構造だけでなく『情報の流れ』も含めてデザインし、それを持続可能な建築の創造に結び付けていくことが、強く期待されている。また、コロナ禍において働き方や住まい方が急速に変化しており、本格的な Society5.0 の建築・都市空間の探究が必須になってきた。本委員会は、情報システム技術を含む諸技術及び情報そのものを用いて、サスティナブルな建築創造やファシリティマネジメントのあり方、その実現に向けた手法の探求を目的として設置するものである。初年度:コロナ禍における「働き方・住まい方」「建築・都市空間と情報デザイン」に関する情報収集および検討(小委員会開催 4回/年) 2年度:コロナ禍における「働き方・住まい方」「建築・都市空間と情報デザイン」「Society5.0 における建築・都市空間と情報デザイン」に関する情報収集および検討ならびに、検討結果に基づく社会との対話公開討論会の開催 (リモート開催も含む)(小委員会開催 4回/年)	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無: 有主査: 清水友理 (大成建設)幹事: 菅野文恵 (ゼロイン)委員: 本江正茂 (東北大学)、石川敦雄 (京都府立大学)、仲 隆介 (京都工芸繊維大学)鯨井康志 (オカムラ)、廣瀬啓一 (清水建設)、横山広大 (東急建設)朝山秀一 (東京電機大学)、掛井秀一 (徳島大学)、小川愛実 (慶應義塾大学)渡邊朗子 (東洋大学)	
設置 WG (WG 名:目的)	FM デザイン WG 目的:オフィスなどの情報の授受を主たる機能とする施設を対象とし、ICT を手段として活用しつつ、適切な情報の流れを作り出すことを目的として実践されているファシリティのデザインおよびマネジメントについて、事例の調査に基づいて、上位小委員会のパースペクティブを具体化する知見を収集、整理することを目的とする。	
2022年度予算	150,000 円 ホームページ公開の有無:無 委員会 HP アドレス: 一	

項目	自己評価
委員会開催数	8回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし

催し物 (シンポジウム・セミナー 等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	サスティナブル情報デザインシンポジウム/ 第 18 回ファシリティマネジメント・シンポジウム「『働く』は、どこに向かうのか」 『同名資料』(全 103 頁) [PDF] 参加者数 71 名
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 本小委員会に関連する事例について、Slackを活用して 64 事例を収集した。 2. 事例収集をスケール別、キーワード別に整理した。 キーワードを整理の上、シンポジウムのテーマ・登壇者を選定し、 サスティナブル情報デザインシンポジウム/第 18 回ファシリティマネジメント・シンポジウム「『働く』は、どこに向かうのか」を開催した。(2023/3/10) 3. 2021年度の課題として、情報発信が未実施だったことを受けて、シンポジウムの開催案内を各方面(学会 HP、学会 Facebook、学会 Twitter、協賛学会等)に行った。結果、目標数(60名)を上回る参加者を得ることができた。 4. シンポジウムは基調講演 1題(仲隆介(京都工芸繊維大学))、事例紹介 4題(山本泉(日本マイクロソフト)、林佐和子/森本精太(サッポロビール)、月生田和樹(ローソン)、薬袋友花里(oVice))をご講演いただいた、パネルディスカッションでは、登壇者に加えて、グラフィックレコーディングを用いた議論の可視化や、ウェビナー機能のアンケート機能を活用し、 聴講者とのインタラクティブなやり取りを行った。 またシンポジウム開催に合わせて資料を作成し、講演資料以外に小委員会活動報告や寄稿(13題)により、全103頁の充実した資料を作成した。
委員会活動の問題点 ・課題	なし
その他	なし